

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3146575号
(U3146575)

(45) 発行日 平成20年11月20日 (2008.11.20)

(24) 登録日 平成20年10月29日 (2008.10.29)

(51) Int.Cl.

B 6 5 D 5/462 (2006.01)

F I

B 6 5 D 5/46 3 O 1 C

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2008-6400 (U2008-6400)
(22) 出願日 平成20年9月10日 (2008.9.10)(73) 実用新案権者 502356517
王子チヨダコンテナ株式会社
東京都中央区銀座五丁目12番8号
(73) 実用新案権者 000122298
王子製紙株式会社
東京都中央区銀座4丁目7番5号
(74) 代理人 100072224
弁理士 朝倉 正幸
(72) 考案者 小松 正行
愛知県額田郡幸田町六ツ栗梅ノ木1-3
王子チヨダコンテナ 幸田工場内
(72) 考案者 高松 崇
愛知県額田郡幸田町六ツ栗梅ノ木1-3
王子チヨダコンテナ 幸田工場内

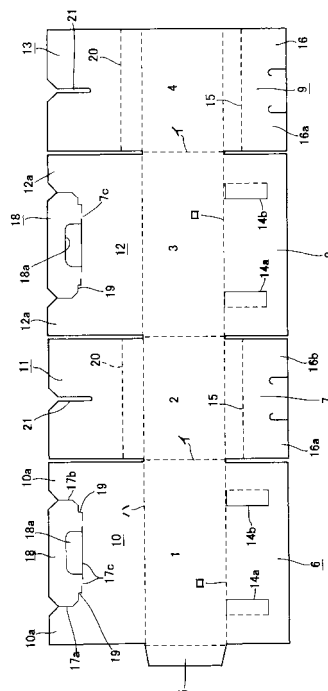
(54) 【考案の名称】 積み重ね可能なキャリーカートン

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】一つの工程で印刷、打ち抜き、貼り加工までできる構造の箱で、取っ手を水平に倒して段積することが可能なキャリーカートンを提供する。

【解決手段】角筒状本体の上面には2組の上蓋フラップ10、12、11、13を連設するとともに、相対する一方の上蓋フラップ10、12には、フラップ上端に連設線方向に延びる2本の切込みと、連設線と平行な折線とにより上面閉塞時に起立して合掌する取っ手を一体に形成する。取っ手の根元にはロック溝を形成し、他方の対となる上蓋フラップにはロック溝に係合する差込溝を形成する。上蓋フラップは前記取っ手の付け根の連設線に平行な折り目線で折り曲げできるように構成し、先に閉じて先端側の折り目線で起立し合掌する取っ手の付け根の切り溝に、前記上蓋フラップを押し込むことで取っ手をロックし、カートンの保管、運送時には合掌させた状態の取っ手を水平に折り曲げて倒すことができる。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

一対の長辺側対向側板と、同じく一対の短辺側対向側板とで角筒状構造の本体を形成し、この本体底面に 4 枚の差込ロックまたは自動ロックのできる底板フラップを連設し、本体の上面には 2 組の上蓋フラップを連設するとともに、相対する一方の上蓋フラップには、フラップ上端に連設線方向に延びる 2 本の切込みを設け、連設線と平行な折線とにより上面閉塞時に起立して合掌する取っ手を一体に形成し、かつ前記取っ手の根元に前記連設線と平行な折線に連続するロック溝を形成し、他方の対となる上蓋フラップには該フラップの連設線より該連設線に平行な折線と、前記取っ手の根元部のロック溝に係合する差込溝を形成してなり、

10

先に閉じて先端側の折り目線で起立し合掌する取っ手の付け根のロック溝に差込溝に係合させて上蓋フラップをロックし、カートンの保管、運送時には合掌させた状態の取っ手を水平に折り曲げて倒すことができるように構成したことを特徴とする積み重ね可能なキャリーカートン。

【請求項 2】

取っ手を一体に有する上蓋フラップ (1 0 , 1 2) に前記取っ手の付け根と側板との間で重ね合せる延長部 (1 0 a) を形成したことを特徴とする請求項 1 に記載の積み重ね可能なキャリーカートン。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】**

20

【0001】

本考案は、上面に取っ手を形成したキャリーカートンに関するものであって、特に取っ手を水平状に折り曲げることにより段積み可能なキャリーカートンに関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来より、商品収納後のカートンを持ち帰る際に、カートンの一部に設けた取っ手を立ち上げて、持ち運びに便利な取っ手を形成したキャリーカートンは知られている。従来のキャリーカートンは、例えば図 8 にも示されるように、カートン 3 0 の上面蓋片 3 2 に取っ手 3 3 を設け、カートンの側壁 3 4 から延長したサイドフラップ 3 5 に溝孔 3 6 を形成して、この溝孔に取っ手 3 3 を差し込むことにより取っ手を保持する構成であった。しかし、このカートンを積み重ねると不安定で積み上げができないという、使用上の問題があった。

30

そこで、この種のキャリーカートンを多段に積み重ねられるように、取っ手をカートンの内部に陥没させたもの (特許文献 1) 等が従来提案されている。

【0003】**【特許文献 1】特開 2 0 0 0 - 3 3 5 5 3 3 号公報****【考案の開示】****【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

40

しかし、取っ手を水平に倒したり、陥没させたりして取っ手が出っ張らないようにしてカートンを積み重ねできるキャリーカートンは、工場製造時に、印刷、抜き、貼りの 3 工程が別々に行われるので、生産性が悪いという問題があった。

【0005】

そこで本考案は、上記従来の課題を改善することを目的として F F G (フレキシフォルダグルア flexo folder gluer の略) を使用して、該機械の 1 工程で印刷、打ち抜き、貼り加工までを連続的に行うことができるキャリーカートンを提案するものである。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

上記課題を解決するため、本考案の包装カートンは、一対の長辺側対向側板と、同じく一

50

対の短辺側対向側板とで角筒状構造の本体を形成し、この本体底面に４枚の差込ロックまたは自動ロックのできる底板フラップを連設し、本体の上面には２組の上蓋フラップを連設するとともに、相対する一方の上蓋フラップには、フラップ上端に連設線方向に延びる２本の切込みを設け、連設線と平行な折線とにより上面閉塞時に起立して合掌する取っ手を一体に形成し、かつ前記取っ手の根元に前記連設線と平行な折線に連続するロック溝を形成し、他方の対となる上蓋フラップには該フラップの連設線より該連設線に平行な折線と、前記取っ手の根元部のロック溝に係合する差込溝を形成してなり、先に閉じて先端側の折り目線で起立し合掌する取っ手の付け根のロック溝に差込溝に係合させて上蓋フラップをロックし、カートンの保管、運送時には合掌させた状態の取っ手を水平に折り曲げて倒すことができるように構成したことを特徴とする積み重ね可能なキャリーカートンである。

10

【０００７】

又本考案は、取っ手を一体に有する上蓋フラップに前記取っ手の付け根と側板との間で重ね合せる延長部を形成したことを特徴とする積み重ね可能なキャリーカートンである。

【考案の効果】

【０００８】

本考案のカートンは、取っ手の部分を水平に折りたたむことができるので、カートンの上面を平坦にして保管、運送時に積み重ねが行えるものである。また、このカートンは印刷、打ち抜き、貼り加工までを１工程で生産できるものである。

20

【考案を実施するための最良の形態】

【０００９】

図１は、展開図であり、段ボール等の厚紙によって形成されている。図１に示すように、四角筒形の本体を形成する二組の対向する側板１、３、２、４が折線イを介して連設され、一端に連設した糊代片５によって四角筒形に組立てられるようになっている。

【００１０】

上記四角筒形の本体を形成する対向する２組の側板１、３、２、４の下端縁には、本体の底部を閉塞するための二組の底板フラップ６、７、８、９が折線ロを介して連設されている。

【００１１】

なお実施例に示した対向する一方の底板フラップ６、８には、コ字形または逆コ字形をしたスリット１４ａ、１４ｂが形成され、他方の底板フラップ７、９にはその連設線と平行に折り目１５と前記スリットに差し込むことができる差込片１６ａ、１６ｂが形成されている。底組立て時にはスリット１４ａ、１４ｂに差込片１６ａ、１６ｂを差し込みロックして使用する。

30

なお本体の底部の封緘方法は、この実施例のロック方式のボトムに限るものではなく、図示は省略するが、従来から自動ロックとして知られる例えばアメリカンロックとかオートボトムを採用することも可能である。

【００１２】

キャリー本体を形成する対向する２組の側板１、３、２、４の上端縁には本体の上面を閉塞できる二組の上蓋フラップ１０、１２、１１、１３が折線ハを介して連設されている。すなわち上蓋フラップ１０、１２は、カートン上面を閉じられ、かつフラップの先端相互が重なり合うような長さに形成されている。より具体的に述べると、上蓋フラップ１０、１２の上端側の中央に、連設線ハの方向に２本の切込み１７ａ、１７ｂと連設線ハに平行な折線１７ｃを設けることにより、上面の閉塞時に起立して合掌する取っ手１８を一体に設ける。この取っ手１８には手を入れてカートンを把持することができる透かし孔１８ａが形成されている。

40

また、取っ手１８の根元には切り込み１７ａ、１７ｂと連設線ハに平行な折線１７ｃとに連続するロック溝１９を形成する。

【００１３】

他方の対となる上蓋フラップ１１、１３は、フラップの先端が突合せとなる長さに形成

50

されている。またフラップの連設線より平行な折れ線 20 を設け、かつ該フラップの先端部中央に、前記取っ手の根元のロック溝 19 に係合する差込溝 21 を形成したものとなっている。

【0014】

この考案のキャリーカートンは、上記のような形態であり商品を持ち帰る際には、次のようにして、取っ手部を組立てることができる。

まず定法に従い、底を組み立てロックした四角筒形の本体（図 2 参照）に商品を収容した後、一对の上蓋フラップ 10, 12 を閉じ、この一对の上蓋フラップ 10, 12 の上面に於いて起立し合掌するように取っ手 18, 18 を立ち上げる（図 3 参照）。続いて他方の一对の上蓋フラップ 11, 13 を平行な折れ線 20 により L 型に折り曲げながら、取っ手 18, 18 の根元で突き合わせるべく、斜め横方向から該フラップの先端中央の差込溝 21 を取っ手 18 の根元のロック溝 19 に挿入する（図 4 参照）。

このようにしたときは、取っ手 18, 18 は上蓋フラップ 11, 13 で完全にロックされるのである。従って、他方の上蓋フラップ 10, 12 も完全にロックされることとなり、図 5 に示すように、取っ手 18 には透かし孔 18a が形成されているから、ここに手を入れてカートンを把持することができる手提げ付きの包装カートンが完成する

【0015】

そして、カートンの保管、運送時には合掌状態の取っ手を水平に折り曲げて倒すことができるから、合掌させた取っ手を開き、図 6 に示すように、水平に折りたたむことができるので、カートンの上面を平坦にして保管、運送時に積み重ねが行えるものである（図 7）。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図 1】この考案のキャリーカートンの一形態を示す展開図。

【図 2】キャリーカートンの底部の形態を示す斜視図。

【図 3】キャリーカートンの上蓋フラップを組み立てる途中の状態の斜視図。

【図 4】キャリーカートンの上部に取っ手を起立させた状態の斜視図。

【図 5】キャリーカートンの取っ手の根元に、上蓋フラップを差し込んだ状態の断面図。

【図 6】取っ手を折り曲げた状態を示す斜視図。

【図 7】取っ手を折り曲げて箱を段積した状態の斜視図。

【図 8】従来例を示す斜視図。

【符号の説明】

【0017】

- 1、2、3、4 側板
- 6、7、8、9 底板フラップ
- 10、11、12, 13 上蓋フラップ
- 14a、14b スリット
- 15 折り目
- 16a、16b 差込片
- 17a、17b 切込み
- 17c 折線
- 18 取っ手
- 18a 透かし孔
- 19 ロック溝
- 20 折線
- 21 差込溝

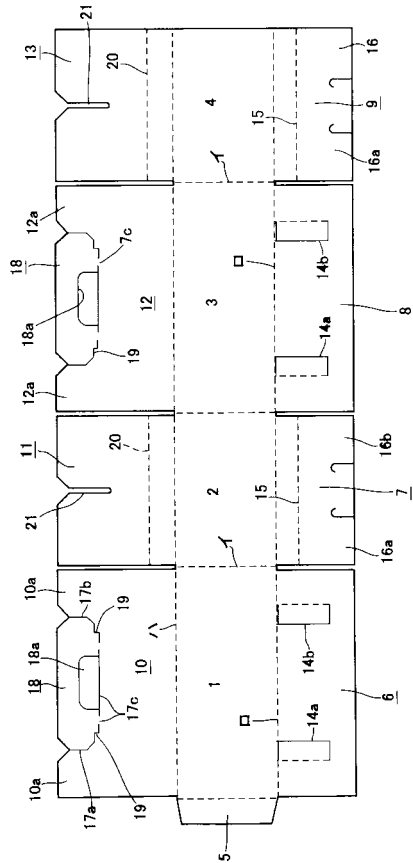
10

20

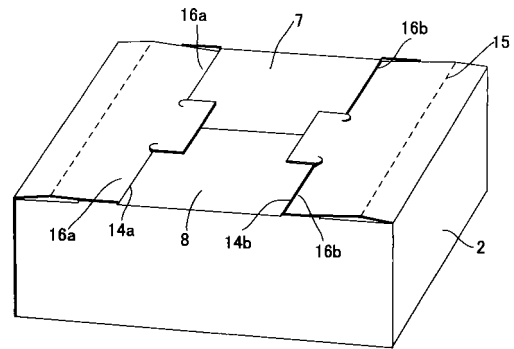
30

40

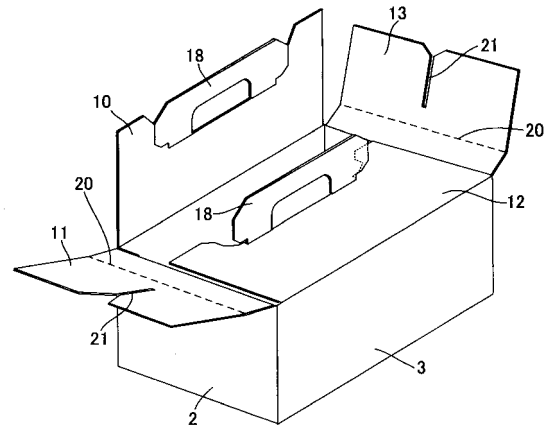
【図 1】



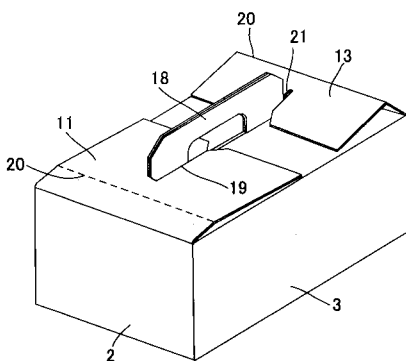
【図 2】



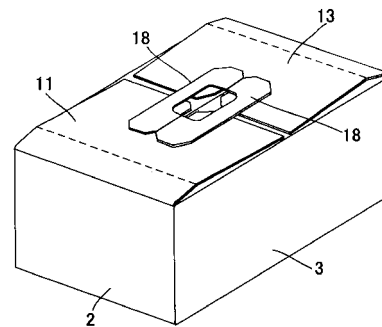
【図 3】



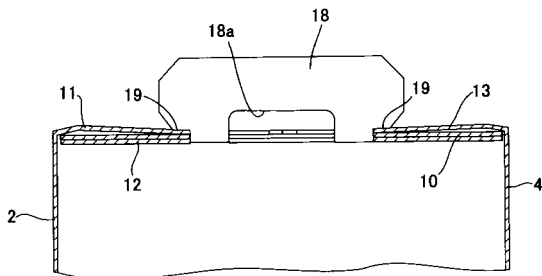
【図 4】



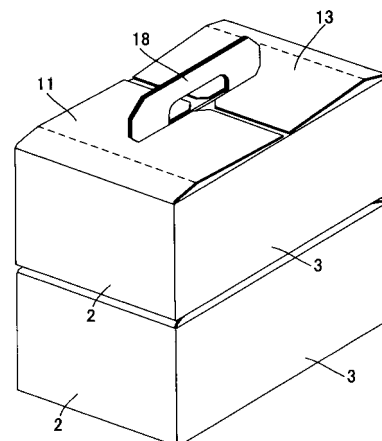
【図 6】



【図 5】



【図 7】



【 図 8 】

